

2 体験を理解する

① 問題に自ら向かう体験を捉える

「遊んでいるか、いないか」「必要な行動ができたか、できないか」という見方ではなく、「どんなことをしているのか」「どんな話をしているのか」という見方で子どもが遊んでいる姿を記録すると、記録から子どもの理解を深めることができます。

以下の事例は、「全て壊して作り直す」という選択をしている場面の記録から、**子どもが問題を乗り越え、諦めずに目的に向かいやり遂げる体験を把握**しています。子どもが「**丈夫に作らないといけない**」という**必要感をもって試行錯誤**しているので、**考えて工夫する積み重ねにより育まれる「科学する心」**が、**主体的に遊びを展開する意欲に結び付いている**ことが読み取れます。

「作り直そう！」 5歳児 学校法人ポークニア学園 みずき野幼稚園

考え合う場面

保育者の読み取り、援助

・子どもたちの提案で、段ボールを用意する。

A児 「これなら滑らないし、破れないね！」
B児 「剣だけで立てる！すごい！」



事前の様子：当初は床の部分を新聞紙にしていたが、子どもたちは棒（子どもは「剣」と言っている）の重みで破れてしまうことに気付いた。破れない物として、子どもたちはポリ袋で挑戦したが、滑りやすいことが分かる。

「段ボールは丈夫」「剣を横に積み重ねると大変」と分かった為、再び剣を立てていく。

↓
剣をつけていくと...
↓
やはり不安定
↓
倒れる前に周りの柱を全部つけようとする。

丈夫になると考えて要求してきた段ボールを用意すると、すぐに使い作り始めた。素材の特徴を活かそうと思い、上手くいかない原因を探しながら取り組んでいる。



・1回目に壊れた時は、「壊れちゃう前に早く作っちゃおう」だった。今回は、「周りの柱を全部つなげないと倒れちゃうから早く作っちゃおう」に変わった。

壊れない方法を考えながら作るようになった。

失敗から作り直す場面

C児 「そっだ。下がグラグラしちゃうから、土台を丈夫にしようか。」
D児 「もう一回、剣を全部取っちゃおう」
A児 「うん、そのほうがやりやすい」

全部、取って心機一転、作り直す

再度、土台を段ボールにしても、棒だけではグラグラしてしまうことを**予想している**。更に丈夫にするために、また、**全部作り直すことを話し合っ確認**している。高いツリーを作り上げるには、土台が重要なことが共通理解されている。

C児 「やっぱり、剣をつけるときに壁みたいな支える物が必要だよ。上手くつかないんだよ。糸の本でも、こうなってる。」

壊れない方法を考えるため、新たな発想をし、伝えている。

C児の言葉を受け、具体的な方法を伝えて伝えている。



E児 「じゃあ、段ボールの端を折ってつけばいいんじゃない？」
C児 「うん、それなら壁みたいな感じで剣がつけやすい」

【「科学する心」が育まれる体験】
・今までの共通体験から、全て壊して初めから作り直す方が良いという選択をする。土台を丈夫にする考えを共有し、作り直す。
・丈夫に作るための新たな考えや自分ができることを出し合っている。

E児 「じゃあ、剣を前と後ろで狭めてつけばいいんじゃない？」
D児 「いいね、おぼえてるよ」
F児 「はい、カムフラフ」

一緒に作る友達の言動を受け入れ、**考えて言動をしている**。諦めずに一緒に作り上げたい意欲がある。

(関連事例P.8)